

雪 梅

方

岳

梅有り雪無ければ精神

雪有り詩無ければ人俗了

薄暮詩成つて天又雪

梅と併せて十分の春

【作者】方岳(一一九九〜一二六二年)南宋の頃の人。字は巨山、号は秋崖。き門(きもん)安徽(あんき)省)の人。一二三二年度の進士。

吏部侍郎(りぶじろう)・秘書郎正丞(ひしよろうせいじょう)となり、のち南康・袁州(なんこう・えんしゅう)共に江西省の刺史となった。才気鋭く詩文にすぐれ、名言佳句(かく)が多い。もともと農民の出のためか農村の景物を詠った詩が多く、秋崖小稿三八巻が有る。

【語釈】\*精 神:いきいきとした勢いがあつて美しいこと 魂のこもつたもの \*俗 了:平凡なものとなつてしまふ・だめにする・全く俗に化する・魂(こころ)のないものとなる \*併:合わせると同じ \*十分:満ち足りる・完全・一ぱい意解

【通釈】梅が咲いても雪が降っていないと風景が生き生きとしたものにはならない。雪が有つても詩心が起きないようでは、せつかくの風景も平凡なものになつてしまふ。夕暮れ時、詩が出来上がり、雪が降ってきた。梅と雪と詩を合わせて春の情趣を十分に味わえものである。